

授業科目 比較文化学特論 I	単位 2 単位
授業担当者 飯田 卓	授業期間 前期
授業の題目と概要 (日本語) 実践理論からみた文化遺産 (英語) Reconsidering Cultural Heritage from the Perspective of Practice Theory 文化遺産が浴びている近年の脚光をふまえ、文化遺産の概念がもつ社会的意義と政治的意図を区別したうえで、それに関する問題を人類学があつかう意義を明らかにする。とりわけ、実践理論の観点から文化遺産に関わる現象を分析することの意義を示す。	
授業の内容と計画 ① 文化遺産の概念と定義：ユネスコにおける文化遺産概念（世界遺産と無形文化遺産）を検討しつつ、日本におけるその受容を概観するなかから、文化遺産という概念が持つ社会的意義と政治的意図を区別する。 ② コミュニティによる継承への着目：世界遺産制度に対する批判から成立した無形文化遺産制度の理念を詳細に分析し、継承コミュニティの役割と権限をどのように考えていくべきかを議論する。 ③ 実践理論における継承：実践理論があつてきたさまざまな実践のうち、とくに世代を超えたコミュニケーションと学習に着目して、文化遺産をめぐる実践を先行研究のなかに位置づける。 ④ ローカル遺産継承への取り組み：文化遺産をめぐるさまざまな取り組みについて、担当教員が事例を紹介して人類学的な視覚を提供するとともに、受講者の知る事例について議論をおこなう。	
使用する参考書、参考論文等 Convention Concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage (UNESCO, Paris, 16 November 1972) Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage (UNESCO, Paris, 17 October 2003) いずれもインターネットで閲覧可能。他の文献は、授業の進行におうじて指示する。	
成績評価基準 討論における発言を重視する。とりわけ、受講者自身の研究との関わりをふまえて、議論の材料を積極的に提起してくれるよう望む。	
その他の留意事項	